

## [成果情報名]長崎県における硬質小麦品種「ミナミノカオリ」の品種特性

[要約]硬質小麦品種「ミナミノカオリ」は、「シロガネコムギ」より出穂期は1～2日遅く、成熟期は同程度もしくは1日遅い。うどんこ病には強いが赤かび病にはやや弱い。収量は低い、タンパク質含有率が高く素麺用に適する。

[キーワード]硬質小麦、ミナミノカオリ、タンパク質含有率、素麺

[担当]総合農林試験場・作物園芸部・作物科

[連絡先]電話0957-26-3330、電子メールdtsuchiya@pref.nagasaki.lg.jp

[区分]農産

[分類]普及

---

### [背景・ねらい]

長崎県の小麦は「シロガネコムギ」「チクゴイズミ」が作付けされており、その用途は菓子用である。しかし、島原半島地域で地場産小麦を使用した素麺開発への要望が強く、タンパク質含有率の高い「ミナミノカオリ」が素麺に適するとの評価が得られている。そこで、硬質小麦品種「ミナミノカオリ」の本県での適応性を検討し、特性を明らかにする。

### [成果の内容・特徴]

「ミナミノカオリ」は九州沖縄農業研究センターにおいて「Pampa INTA」と「西海167号」との交配から育成された小麦品種である。長崎県では「シロガネコムギ」と比較して以下のような特性を有する。

1. 出穂期は1～2日遅く、成熟期は同程度もしくは1日遅い早生種である（表1）。
2. 稈長は長く、穂長はわずかに短く、穂数は少ない（表1）。
3. うどんこ病に対する抵抗性はやや強いが、赤かび病に対してはやや弱い（表1）。
4. 千粒重はやや重く、容積重はやや軽い。収量は低く、検査等級は劣る（表2）。
5. 原麦の粗蛋白質含有率が高く、素麺用に適する（表3）。

### [成果の活用面・留意点]

1. 島原地区を中心に県下に普及する。用途は素麺用をはじめとし醤油用、パン用である。
2. 穂発芽性が“やや易”であるため適期収穫に努める。
3. 赤かび病にやや弱いので適期防除を徹底する。
4. 検査等級は日本麺用での評価結果である。
5. 収量が低いため、増収技術の確立が必要である。
6. 平成18年度に長崎県の奨励品種として採用された。

[具体的データ]  
表1 生育調査結果

場 所	施肥	品 種 名	出穂 期 月.日	成熟 期 月.日	稈 長 cm	穂 長 cm	穂 数 本/m <sup>2</sup>	倒伏 程度 (0-5)	赤か び病 (0-5)	うどん こ病 (0-5)
諫早市 貝津町 (農試)	標肥	ミナミノカオリ	4.09	5.30	81	7.8	318	0.2	1.0	0.0
		チクゴイズミ	4.08	5.30	83	8.2	350	0.7	0.6	1.6
		シロガネコムギ	4.08	5.30	75	7.9	374	0.0	0.6	0.8
	多肥	ミナミノカオリ	4.11	5.31	88	8.6	453	0.5	1.5	0.5
		チクゴイズミ	4.10	5.31	87	9.3	557	1.4	1.0	1.0
		シロガネコムギ	4.10	5.30	80	8.7	515	0.0	1.0	1.0
諫早市 川内町	現地 慣行	ミナミノカオリ	4.12	6.04	91	8.3	522	0.0	0.0	0.0
		シロガネコムギ	4.10	6.03	82	8.5	710	0.0	0.0	0.0
雲仙市 国見町	現地 慣行	ミナミノカオリ	4.11	5.31	84	7.8	305	0.0	0.5	0.0
		チクゴイズミ	4.10	5.30	89	8.4	381	0.0	0.5	0.0

注1) 諫早市貝津町：標肥は1999～2001、2004～2005年度の5カ年平均値。多肥は2004～2005年度の2カ年平均値（表2も同様）。

諫早市川内町：2005年度の値（表2も同様）。

雲仙市国見町：2004～2005年度の2カ年平均値（表2も同様）。

注2) 諫早市貝津町(農試)の施肥条件は、標肥が基肥-分げつ肥-穂肥=5-2-3(Nkg/10a)で各年次共通。多肥は標肥の1.5倍の施肥（表2も同様）。

注3) 諫早市川内町の施肥条件は、基肥-分げつ肥-穂肥=5.6-4.2-3.6(Nkg/10a)。

注4) 雲仙市国見町の施肥条件は、基肥-分げつ肥-穂肥=6.4-2.7-0.0(Nkg/10a)。

注5) 倒伏程度、赤かび病、うどんこ病は0(無)～5(甚)の6段階で表示。

表2 収量、品質調査結果

場 所	施肥	品 種 名	子実重 kg/a	対標比	容積重 g	千粒重 g	検査 等級
諫早市 貝津町 (農試)	標肥	ミナミノカオリ	34.6	88	789	37.8	5.8
		チクゴイズミ	44.1	112	807	39.4	3.0
		シロガネコムギ(標)	39.2	100	810	35.6	3.5
	多肥	ミナミノカオリ	42.8	89	807	34.3	4.0
		チクゴイズミ	55.2	115	813	35.6	2.7
		シロガネコムギ(標)	48.0	100	824	34.1	2.7
諫早市 川内町	現地 慣行	ミナミノカオリ	43.5	79	791	33.5	3.5
		シロガネコムギ(標)	55.2	100	799	32.4	1.5
雲仙市 国見町	現地 慣行	ミナミノカオリ	37.3	74	819	36.4	3.0
		チクゴイズミ(標)	50.4	100	817	38.5	1.0

注1) 検査等級：1(1等上)～6(2等下)及び7(規格外)の7段階表示。

表3 原粒の粗蛋白質含有率(%)

場 所	ミナミノカオリ	チクゴイズミ	シロガネコムギ
諫早市貝津町(農試)	10.2	8.0	9.0
諫早市川内町	10.9	—	9.7
雲仙市国見町	12.1	9.1	—

注1) 数値は2005年度の値。

注2) 測定はFoss Infratec1241により実施。

[その他]

研究課題名：麦類奨励品種決定調査

予算区分：県単

研究期間：1999～2001、2004～2005年度

研究担当者：土谷大輔、佐田利行、岳田司